



“女性が活躍できる文化へむけて” (要旨)

大江紀洋 (WEDGE 編集長) vs 麻植 茂 (未来を創る財団)

女性が活躍できる文化

大きな責任を負うと考えられる男の視点でアプローチするところみで大江氏と対談。

男性社会基準の下で

日本社会にある「男社会基準」、その男社会基準のアンチテーゼを考えてみたらどうか。21世紀型の新しい評価基準ができれば、女性が活躍できる社会も実現するのではないかと。

世代間ギャップかもしれない

女性が活躍しにくい社会は、高度成長の中で作り上げられてきた既得権層を守るための秩序。それが、男女という性差なのか。世代間ギャップのような気もする。

アンチテーゼとは、上下関係の重視からフラットな関係をより大切にするという意味。

女性の方が合理的

日本はしきたりや秩序を重視する社会。その点女性は、より合理的に考えるのは確か。

適切な能力評価とは

能力評価、実力主義とは言うが、実際には女性の能力を適切に評価できていないと思う。

疑問なく働けるか

上の言うことに疑問を感じずに言う通りに働けというが、それを馬鹿げていると感じる女性は少ないのではないかと。責任ある立場には立ちたがらない女性が多い。大組織の中の中間管理職のような仕事を女性はもっとも嫌っているのかもしれない。

向き不向き

広報とか新製品開発とか女性に向いていると言われる仕事はたくさんある。それと、ひとつ言えると思うのは、女性は褒めるほうがよく育つ。

働きやすい外部環境

福井のような三世同居の大家族に戻すことはできないだろうが、コミュニティ単位でそれを考えればよい。さらに、在宅勤務が広がれば、女性がより働けるようになる。

評価基準改革への一歩

ワークライフ・バランスを追求する人が増え、なかには非常に効率的に働く人も増えた。仕事の仕方が大きく変わっていくように思う。

ワークシェアリングには別の効用も

ワークシェアリングは、仕事を標準化することが肝心。標準化した仕事なら、出産や育児で一時退職しても、いつでも戻ってくるのが可能になる。

日本企業はまだまだ標準化されていない「昔ながらのやり方」が職場、職場に生き残っている。これを標準化することで企業の生産性、収益性は大きく改善する。

(了)

##

大江紀洋(おおえ・のりひろ)氏 1977年(昭和52年)奈良県生まれ。東京大経済学部卒。2006年からWEDGE編集部。エネルギー、医療などを担当。2011年から編集長。

##



Photo by T.I.

このニュースレターは、未来を拓く提言を発信します。
ご意見、賛同、助言、ご提言を当財団までお寄せください。
一般財団法人「未来を創る財団」事務局 パブリック・コミュニケーション担当
publiccommunication@theoutlook-foundation.org

© 2014 The Outlook Foundation, All rights reserved.